

## 論文審査の要旨 (甲)

|  |   |
|--|---|
| 申請者領域・分野 氏名  | 総合医療・健康科学領域・スポーツ健康科学教育研究分野<br>氏名 関根 陽平              |
| 指導教授氏名   | 中路 重之   |
| 論文審査担当者  | 主 査 小林 恒<br>副 査 大門 眞                      副 査 今泉 忠淳 |
| <p>(論文題目)</p> <p>一般住民における歯の欠損および残存歯数が動脈硬化に及ぼす影響<br/>(Influence of tooth loss and remaining teeth on arterial stiffness in the general population)</p>  |   |
| <p>(論文審査の要旨)</p> <p>歯周病と動脈硬化の関連性が指摘されているが、従来の疫学研究は横断調査がほとんどであり縦断研究はみられない。そこで、申請者は 60 歳以下の一般住民を対象に歯牙喪失数と動脈硬化関連項目 (baPWV、収縮期血圧、拡張期血圧、HbA1c、Total-Cho、HDL-Cho) との関連を縦断的に調査し、歯の欠損が動脈硬化に及ぼす影響について以下の検討を行った。</p> <p>対象者は 2005 年度と 2013 年度の岩木健康増進プロジェクト・プロジェクト健診の両方を受診した 60 歳以下の者 161 名 (男性 57 名、女性 104 名) であった。測定項目は、アンケート調査 (病歴、服用剤、閉経、喫煙習慣、飲酒習慣、運動習慣) に加え、身長、体重、血圧、上腕一足首脈波伝播速度 (brachial-ankle pulse wave velocity; baPWV)、血液検査 (Total-Cho、HDL-Cho、HbA1c) と残存歯数であった。</p> <p>残存歯数と動脈硬化関連項目との関連を重回帰分析により検討した結果、男性において期間中の残存歯数の変化量と baPWV および収縮期血圧の変化量に有意な負の相関関係がみられた (<math>P&lt;0.05</math>)。一方、女性においては有意な相関関係はみられなかった。また、男性において調査開始時の残存歯数が 24 本以上であった者では、残存歯数の変化量と baPWV、収縮期血圧、拡張期血圧の変化量に負の相関関係がみられた (各々 <math>P=0.064</math>、<math>P=0.046</math>、<math>P=0.048</math>) が、0-23 本であった者において動脈硬化関連項目との相関関係はみられなかった。一方、女性においては、調査開始時の残存歯数が 0-23 本であった者において、残存歯数の変化量と Total-Cho、HDL-Cho の変化量に負の相関関係がみられた (各々 <math>P=0.063</math>、<math>P=0.035</math>)。この男女差には、女性ホルモンによる動脈硬化の抑制作用の介在が推察された。</p> <p>本研究は残存歯数と動脈硬化関連項目との関係を縦断研究において検討した初めての報告であり、口腔の健康保持が動脈硬化を予防する可能性を示唆し、疫学研究として意義があり学位授与に値する。</p> |   |
| 公表雑誌等名   | 体力・栄養・免疫学雑誌   |